

博士論文審査要旨

論文審査担当者

主査	明星大学教授	佐々井	利夫
副査	明星大学教授	大橋	有弘
副査	明星大学准教授	廣嶋	龍太郎
副査	大阪教育大学大学院准教授	寺嶋	浩介

申請者氏名 村井 万寿夫

論文題目 総合的な学習の時間の展開における課題と解決についての考察
—小学校教師を対象とした意識調査を手がかりに—

(論文審査の結果の内容)

小学校における総合的な学習の時間は平成10年の『小学校学習指導要領』で公示された。しかし、その『要領』において教育内容に関する例示はあるものの学校や教師の裁量にゆだねられ、方法論も不明確で、さらに当時の「ゆとり教育」批判もあり、実施上の問題が指摘されてきた。今日では実践上の成果もあり定着してきているが、今なお総合的な学習の時間実践についての教師の意識に負担感も指摘されている。

そこで本研究においては、金沢市の小学校教師を対象とした意識調査を実施して、総合的な学習の時間における課題を具体的に把握し、解決に向けての方策を考察することを目的としている。

第1章では、総合的な学習の時間の研究動向について学会誌を主たる資料とし、カリキュラム、授業力、評価の3つの視点から考察し、本研究の基礎的考察とした点は評価に値する。第2章では、総合的な学習の時間の展開を阻害する要因について質問紙調査をもとにまず量的な結果を導き出している。その結果では総合的な学習の時間は得意ではないが、指導が好きとする教師が多くいる一方で、学習環境設定力に力量不足を感じる教師が多いなどの結果が得られた。また質的な分析では総合的な学習の時間を肯定的に取り組む教師の意識に「楽しい」という要因を見出した。一方で消極的な取り組みの傾向がある教師には「時間が足りない」「指導方法がわからない」などが見られ、負担感の要因となっていることを指摘した。教師の本音を導き出し、適切な考察が展開されている。

第3章では質問紙調査に回答を得た教師のなかで12人を対象に総合

的な学習の時間の計画、実施、評価について聞き取り調査を行っている。その結果、児童の興味の先読み、課題について自力解決させる、教師間の情報共有、多様な評価などの重要性を析出した。本章においては第2章の調査を踏まえ、実践上の課題をより具体的に導き出している。

第4章では第2章、第3章の調査に基づき、総合的な学習の時間の展開上の課題と解決の方策を、学習の計画、学習の進め方、教師の資質能力、教師の負担の4点について示し、次章の授業改善のための提案につなげている。

第5章では、教師への意識調査を踏まえつつ、まず「素材とねらいの連関モデル」を示し、児童側から見た素材の見方と教師側から見た授業の核となるねらいを連関させる図を考案した。学習素材を児童の興味・関心に沿って身近なものから取り上げ、児童の体験・探求の深まりとともに教師のねらいも拡大していくように関連付けることによって授業の改善を目指すという、方向性を提起している。また、本章では、「総合的な学習の時間の計画、実施、評価のための見取り図」を示している。図では活動時の働きかけを時系列として示し、働きかけのそれぞれに評価方法、留意点などを示したものである。前図とこの図を関連させることにより児童の活動がどのように展開していくのかの見通しを持つことができ、一方で、他の教科学習とは異なる総合的な学習の時間の特質を理解することができるとしている。本章の最後では、本章で提示した2つの図について4人の教師に感想や意見を求め、肯定的な解答を得たと結論されている。

本研究は、先行研究を踏まえ、総合的な学習の時間についての教師の意識調査を実施し、その調査で見出された課題を解決するための授業の改善方策を示した実践的、具体的研究である。総合的な学習の時間研究は、歴史のある各教科など他の教育活動と比べて研究実績が不十分な領域であるが、本研究は今後の研究に資するものと評価することができる。

よって本研究は博士（教育学）の学位を授与するに十分価値があるものと認める。

（試験および試問の結果の要旨）

口頭試問において、先行研究への言及が学会誌以外の資料をもっと活用することが望まれるとの指摘や、調査対象が金沢市の小学校教員に限定されていること、2つの概念図の有効性についての検証が不十分であるなどの意見が出された。しかし、総合的な学習の時間の展開上の課題を具体的に示し、改善への概念図を示したことは、今後の総合的な学習の時間の理論と実践の発展に貢献すると判断した。

公聴会においては、今後の実践に本研究の成果をどのように活用するかなどの質問が出たが、本研究の意義を否定する意見は出されなかった。

以上、慎重に審議した結果、合格と判断した。